

毎週、例会で歌っている「ロータリーソング」について「ロータリージャパン」から仕入れたものをお話しさせていただきます。

ロータリーで最初に「歌を歌う」ということを始めたのは、1905年のロータリー創立時の4人に次いで5番目に入ったハリ・ラグルスという印刷業の男性でした。ポール・ハリスの評によると一見無愛想で、入会の紹介時果たしてロータリーの友好を実現できるだろうか、内心危ぶまれるほどの人だったようです。



実はハリ・ラグルスが大好きだったそうで、ある秋の日の夜の例会について「奉仕の一世紀 国際ロータリー物語」には、次のように記されています。

1905年のある秋の夜、例会で一時的な静寂が訪れた。会話のざわめきが突然止んだ。警告も無く、ハリ・ラグルスが自ら立ち上がって「おい、みんなで歌おう」と、当時流行っていた歌を何曲か音頭を取って歌った。以来例会での合唱は、ロータリーの伝統となった。この時歌われたのは、いわゆるロータリーソングではなく、当時の流行歌でした。

ロータリー誕生後2年目には、ささいな意見の相違が段々大きくなり、シカゴクラブ内が割れ、出席率も低下するという事態が起こりました。そこで当時シカゴRCの幹事であったウィル・R・ネッフ医師が、ハリ・ラグルスと協議しました。

「これがもう1カ月も続けば、クラブは解散してしまうだろう。私は君が毎週立ち上がって、楽しく歌う事にしたらどうかと思う」と言った事から、ハリ・ラグルスによる歌声が毎回クラブの例会で響くようになり、いつの間にかクラブの中の雰囲気は改善され、シカゴRCは解散の危機を脱していたそうです。歌が、人々の心を結んだのですね。

その後、ハリ・ラグルスの指揮は恒例のものとなり、所属クラブでも全米の地区大会でも、国際大会でも歌の音頭を取ったそうです。

日本最初のロータリークラブは、1920年創立の東京RCですが、初めの頃は「ロータリーソング」を英語のまま歌っていたそうで、日本語によるロータリーソングは「奉仕の理想」「我等の生業」が1935年（昭和10年）京都における地区大会で発表されました。戦争中は「君が代」の斉唱が始まり、1951年には「手に手つないで」が作られ、「それでこそロータリー」が1953年に誕生しています。

例会プログラム [会員維持・増強について] 能登 信孝 会員

8月ガバナー月信巻頭の、山本DG（会員増強および拡大月間に寄せて）の文章を朗読致しましたので、ご参照ください。

配布した一覧表について、会員のロータリー歴構成比率は、年度によって凸凹があり、必ずしも良好とは言えないが、会員維持によって現況は守れます。

未充填リストは、会員増強の為の新会員を掘り起こす時に、友好に利用して欲しい。

家庭集会（ロータリー研修委員会）でのテーマとして取り上げて頂き、具体的に入会勧誘者の氏名を挙げていただくようお願いいたします。

例会プログラム [会員維持・増強について] 金森 元英 会員

まず、言葉の意味の勘違いと、使い方についてお話ししたいと思います。

日頃、「けんけんがくがく」と使っているのは間違いで、「けんけんごうごう」（喧々囂々）・がやがやとやかましい様子、「かんかんがくがく」（侃侃諤諤）・少しも遠慮することなく議論する事、という風を使うのが正しいです。両方ごっちゃにしていましたので、これからは気をつけていきたいと思います。

更にもうひとつ、「輩出」について、すぐれた人材が続出する・多数送り出すという意味です。一人でなく複数の時に使います。

たとえば、山口県から多数の首相を輩出している、という風に使います。

会員増強は、「言うは易く、行うは難し」であり、常に痛感している所であります。

勧誘してもなかなか入会まで至らない、いままで入会させた方には心から敬意を表します。

入会勧誘は困難だという事で、規制を緩和しております。

1. 区域外入会を認める様になった。
 2. 会員資格の緩和 テレトリーの事業所に限らず、住居も認める。更に隣からの越境も認める事となった。
 3. 一業種一人が、同一職業分類では5名まで、会員数51名以上のときは10%まで認めております。
 4. 会員制度。正会員、アディショナル会員、パストサビス会員
 5. 例会メーカーが前後2週間、出席と認められている。
 6. クラブが主体性を持って、年2回独自性をもって休みに出来る。
 7. 成人男子会員制から成人会員制。女性会員と地域貢献
 8. 自分の経験から、入会当初推薦者が優しく接してくれていたので、いままで続けて来れた。
 9. 家庭集会。効用を大いに利用して欲しい、コミュニケーションの絶好の場所
- これからも皆様、会員増強に励んで下さい。宜しく願いいたします。